

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年2月10日

**【四半期会計期間】** 第74期第3四半期(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

**【会社名】** 株式会社大本組

**【英訳名】** OHMOTO GUMI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 大本 榮一

**【本店の所在の場所】** 岡山市北区内山下1丁目1番13号

**【電話番号】** (086)225 5131(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 大藤 強

**【最寄りの連絡場所】** 岡山市北区内山下1丁目1番13号

**【電話番号】** (086)225 5131(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 大藤 強

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大本組東京支店  
(東京都千代田区永田町二丁目17番3号)

株式会社大本組大阪支店  
(大阪市北区南森町二丁目4番4号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第73期 前第3四半期 連結累計期間	第74期 当第3四半期 連結累計期間	第73期 前第3四半期 連結会計期間	第74期 当第3四半期 連結会計期間	第73期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高 (百万円)	61,656	56,266	18,733	21,543	77,947
経常利益 (百万円)	1,088	1,742	260	866	1,075
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,078	1,696	206	857	951
純資産額 (百万円)			46,666	47,817	46,721
総資産額 (百万円)			69,974	76,674	68,479
1株当たり純資産額 (円)			1,518.31	1,555.95	1,520.18
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	35.08	55.19	6.73	27.91	30.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)			66.7	62.4	68.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,964	6,362			9,883
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15,057	8,647			14,761
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	386	354			402
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)			9,394	11,524	9,592
従業員数 (人)			864	853	851

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	853[102]
---------	----------

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[ ]内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

2 臨時従業員は、有期契約社員、パートタイマー及び派遣社員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	816[ 64]
---------	----------

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は[ ]内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。

2 臨時従業員は、有期契約社員、パートタイマー及び派遣社員であります。

## 第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載につきましては、消費税等抜き金額を表示しております。

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 受注実績

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間(百万円) (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
土木事業	4,961	
建築事業	11,894	
不動産事業		
合計	16,856	

#### (2) 売上実績

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間(百万円) (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
土木事業	6,023	
建築事業	15,390	
不動産事業		
その他	130	
合計	21,543	

(注) 1 当連結企業集団では生産実績を定義することが困難であるため、「生産の状況」は記載しておりません。  
2 セグメント間の受注・取引については相殺消去しております。

なお、参考のため、提出会社個別の事業の状況は次のとおりであります。

受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

期別	工事別	前期繰越工事高 (百万円)	期中受注工事高 (百万円)	計 (百万円)	期中完成工事高 (百万円)	期末繰越工事高			期中施工高 (百万円)
						手持工事高 (百万円)	うち施工高		
							比率 (%)	金額 (百万円)	
前第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	土木	26,366	16,372	42,739	21,160	21,578	15.5	3,340	19,338
	建築	50,528	31,999	82,527	38,805	43,722	5.2	2,295	30,504
	計	76,895	48,371	125,267	59,965	65,301	8.6	5,636	49,842
当第3四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	土木	21,620	13,938	35,558	15,220	20,337	10.1	2,060	14,951
	建築	47,511	32,842	80,354	40,711	39,643	7.2	2,869	41,970
	計	69,131	46,781	115,912	55,931	59,981	8.2	4,929	56,921
前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	土木	26,366	23,364	49,731	28,111	21,620	10.8	2,329	25,278
	建築	50,528	45,046	95,575	48,063	47,511	3.4	1,609	39,077
	計	76,895	68,410	145,306	76,174	69,131	5.7	3,939	64,355

- (注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減がある場合は、期中受注工事高にその増減額を含んでおります。したがって、期中完成工事高にもかかる増減額が含まれております。  
2 期末繰越工事高の施工高は、支出金により手持工事高の施工高を推定したものであります。  
3 期中施工高は(期中完成工事高 + 期末繰越施工高 - 前期繰越施工高)に一致いたします。

完成工事高

期別	区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
前第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	土木工事	4,516	2,701	7,218
	建築工事	802	10,581	11,383
	計	5,318	13,283	18,601
当第3四半期会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	土木工事	3,965	2,057	6,023
	建築工事	395	14,994	15,390
	計	4,361	17,052	21,413

(注) 1 完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

前第3四半期会計期間 請負金額10億円以上の主なもの

三菱商事(株) (株)パルタックK S R D C東北流通加工場新築工事  
三菱商事(株) クラヤ三星堂八尾A L C新築工事  
中日本高速道路(株) 東名阪自動車道 桃山工事

当第3四半期会計期間 請負金額5億円以上の主なもの

K & K湘南マネジメント (仮称)辻堂駅前商業施設設計画新築工事  
特定目的会社  
長州産業(株) 本社工場 第4期工場新築工事  
萩市 大島漁港特定漁港漁場整備工事

2 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上に該当する相手先別の完成工事高及びその割合は、次のとおりであります。

前第3四半期会計期間

三菱商事(株) 2,904百万円 15.6%  
国土交通省 2,226百万円 12.0%

当第3四半期会計期間

イオンリテール(株) 4,834百万円 22.6%  
国土交通省 2,208百万円 10.3%

手持工事高(平成22年12月31日現在)

区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
土木工事	10,533	9,804	20,337
建築工事	1,528	38,115	39,643
計	12,061	47,919	59,981

(注) 手持工事のうち請負金額10億円以上の主なものは、次のとおりであります。

イオンリテール(株) イオン伊丹西ショッピングセンター新築工事 平成23年3月完成予定  
クラレエンジニアリング(株) 歯科材料新製造所設置工事の内建築工事及び  
建築付帯設備工事 平成23年6月完成予定  
大阪府 寝屋川北部地下河川 讃良立坑築造工事 平成24年6月完成予定

## 2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間のわが国経済は、新興諸国を中心とした海外経済の改善を受け、輸出が増加に転じて企業収益は伸長し、これらを背景に設備投資や個人消費が持ち直すなど、回復に向けた動きが見られました。しかし一方では、急激な円高の進行等による先行き不安から景況が弱含み、雇用情勢の厳しさや持続的なデフレを背景とした下振れ懸念と相まって、景気の自律的な回復に向けては弱さが見られました。

主たる事業領域である建設業界におきましては、公共工事が予算削減の影響を強く受け低調に推移したほか、依然として過剰感が残る民間設備投資も引き続き抑制されたことから、厳しい受注環境が続きました。

当第3四半期連結会計期間の売上高につきましては、215億43百万円(前年同期比15.0%増)となりました。利益につきましては、営業利益8億13百万円(前年同期比294.1%増)、経常利益8億66百万円(前年同期比232.1%増)、四半期純利益8億57百万円(前年同期比314.8%増)となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、562億66百万円(前年同期比8.7%減)となりました。利益につきましては、営業利益16億5百万円(前年同期比68.7%増)、経常利益17億42百万円(前年同期比60.1%増)、四半期純利益16億96百万円(前年同期比57.3%増)となりました。

セグメント別の業績につきましては以下のとおりであります。(セグメント別の業績につきましては、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。)

#### 土木事業

土木事業の当第3四半期連結会計期間のセグメント売上高は60億23百万円となり、セグメント利益は4億96百万円となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は152億20百万円、セグメント利益は8億32百万円となりました。

#### 建築事業

建築事業の当第3四半期連結会計期間のセグメント売上高は153億90百万円となり、セグメント利益は12億83百万円となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は407億11百万円、セグメント利益は37億42百万円となりました。

#### 不動産事業

当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結累計期間では、不動産事業による売上高はありません。

## その他

その他事業の当第3四半期連結会計期間のセグメント売上高は1億33百万円となり、セグメント利益は20百万円となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間のセグメント売上高は3億44百万円、セグメント利益は21百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて81億95百万円増加し、766億74百万円となりました。

流動資産は、受取手形・完成工事未収入金等の増加等により91億73百万円増加、固定資産は、株価の下落に伴う投資有価証券の減少等により9億78百万円の減少となりました。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて70億99百万円増加し、288億57百万円となりました。

流動負債は、支払手形・工事未払金等の増加等により74億60百万円増加、固定負債は、長期預り保証金の返還等により3億60百万円の減少となりました。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末に比べて10億95百万円増加し、478億17百万円となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、第2四半期連結会計期間末残高から44億51百万円増加し、115億24百万円となりました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期の56億58百万円増加に対して41億29百万円減少となりました。その主な要因は売上債権の増加によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期の65億92百万円減少に対して85億81百万円増加となりました。その主な要因は定期預金の払戻による収入によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

前年同期の8百万円減少に対して0百万円の減少となりました。その要因は自己株式の取得によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。



(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は36百万円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

特に記載する事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	124,500,000
計	124,500,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,704,400	31,704,400	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株 であります。
計	31,704,400	31,704,400		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年12月31日		31,704		5,296		4,314

#### (6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成22年9月30日の株主名簿に基づいて記載しております。

【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 970,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,557,000	30,557	
単元未満株式	普通株式 177,400		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	31,704,400		
総株主の議決権		30,557	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式849株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社大本組	岡山市北区内山下 1 1 13	970,000		970,000	3.06
計		970,000		970,000	3.06

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	328	319	308	308	288	290	291	299	313
最低(円)	310	276	282	282	272	273	271	276	296

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月11日以前は大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、並びに当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	11,142	21,411
受取手形・完成工事未収入金等	3 37,895	25,497
有価証券	6,300	2,500
未成工事支出金	2 5,332	2 4,363
材料貯蔵品	47	135
繰延税金資産	363	363
未収入金	3,269	1,284
その他	1,776	1,336
貸倒引当金	71	8
流動資産合計	66,057	56,884
固定資産		
有形固定資産	1 4,678	1 4,765
無形固定資産	134	252
投資その他の資産		
投資有価証券	4,661	5,419
長期貸付金	20	22
その他	1,300	1,394
貸倒引当金	177	259
投資その他の資産合計	5,804	6,576
固定資産合計	10,616	11,594
資産合計	76,674	68,479

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	18,122	10,523
未払金	155	400
未払法人税等	56	100
未成工事受入金	2,858	2,745
完成工事補償引当金	205	147
賞与引当金	120	489
工事損失引当金	285	127
その他	453	262
流動負債合計	22,258	14,798
固定負債		
退職給付引当金	3,152	3,161
役員退職慰労引当金	770	753
資産除去債務	37	-
繰延税金負債	593	762
その他	2,043	2,280
固定負債合計	6,598	6,958
負債合計	28,857	21,757
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,296	5,296
資本剰余金	4,314	4,314
利益剰余金	37,790	36,447
自己株式	482	481
株主資本合計	46,918	45,576
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	898	1,145
評価・換算差額等合計	898	1,145
純資産合計	47,817	46,721
負債純資産合計	76,674	68,479

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高		
完成工事高	60,316	56,266
不動産事業売上高	1,340	-
売上高合計	61,656	56,266
売上原価		
完成工事原価	56,121	51,067
不動産事業売上原価	1,251	-
売上原価合計	57,373	51,067
売上総利益		
完成工事総利益	4,194	5,198
不動産事業総利益	88	-
売上総利益合計	4,282	5,198
販売費及び一般管理費		
販売費及び一般管理費合計	3,330	3,593
営業利益	951	1,605
営業外収益		
受取利息	49	44
受取配当金	77	82
受取賃貸料	104	94
その他	2	2
営業外収益合計	234	224
営業外費用		
支払利息	15	7
賃貸収入原価	49	45
シンジケートローン手数料	20	19
その他	12	15
営業外費用合計	97	88
経常利益	1,088	1,742



(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2	9
投資有価証券償還益	34	-
貸倒引当金戻入額	98	80
その他	31	3
特別利益合計	166	94
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	0	0
投資有価証券評価損	54	48
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	37
その他	4	1
特別損失合計	60	88
税金等調整前四半期純利益	1,194	1,748
法人税、住民税及び事業税	74	52
過年度法人税等	41	-
法人税等合計	116	52
少数株主損益調整前四半期純利益	-	1,696
四半期純利益	1,078	1,696

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	18,733	21,543
売上高合計	18,733	21,543
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	17,386	19,532
売上原価合計	17,386	19,532
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	1,346	2,010
売上総利益合計	1,346	2,010
<b>販売費及び一般管理費</b>		
販売費及び一般管理費合計	1,139	1,197
<b>営業利益</b>	206	813
<b>営業外収益</b>		
受取利息	17	15
受取配当金	28	33
受取賃貸料	34	29
その他	1	0
営業外収益合計	81	79
<b>営業外費用</b>		
支払利息	4	3
賃貸収入原価	15	14
シンジケートローン手数料	3	2
その他	3	5
営業外費用合計	27	26
<b>経常利益</b>	260	866
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2	9
貸倒引当金戻入額	31	24
特別利益合計	33	34
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	0	0
投資有価証券評価損	15	25
その他	1	0
特別損失合計	17	25
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	277	874
法人税、住民税及び事業税	29	16
過年度法人税等	41	-
法人税等合計	70	16
<b>少数株主損益調整前四半期純利益</b>	-	857
<b>四半期純利益</b>	206	857

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,194	1,748
減価償却費	345	263
退職給付引当金の増減額（は減少）	121	9
賞与引当金の増減額（は減少）	374	368
完成工事補償引当金の増減額（は減少）	6	57
貸倒引当金の増減額（は減少）	474	19
工事損失引当金の増減額（は減少）	47	157
受取利息及び受取配当金	126	127
支払利息	15	7
投資有価証券評価損益（は益）	54	48
ゴルフ会員権評価損	1	-
固定資産除却損	2	0
固定資産売却損益（は益）	1	9
投資有価証券売却損益（は益）	30	-
投資有価証券償還損益（は益）	33	-
ゴルフ会員権売却損益（は益）	1	3
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	37
会員預り金の返還による支出	131	55
売上債権の増減額（は増加）	8,056	12,398
未成工事支出金の増減額（は増加）	11,461	969
たな卸資産の増減額（は増加）	1,220	88
仕入債務の増減額（は減少）	3,203	7,598
未成工事受入金の増減額（は減少）	10,579	113
その他の流動資産の増減額（は増加）	1,529	2,286
その他の流動負債の増減額（は減少）	52	90
その他の固定資産の増減額（は増加）	803	97
その他の固定負債の増減額（は減少）	8	165
未払消費税等の増減額（は減少）	248	149
未収消費税等の増減額（は増加）	-	142
小計	10,014	6,396
利息及び配当金の受取額	119	128
利息の支払額	15	7
法人税等の支払額	154	86
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,964	6,362

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	26,418	18,218
定期預金の払戻による収入	12,528	28,918
有価証券の取得による支出	1,700	11,500
有価証券の償還による収入	500	9,500
有形固定資産の取得による支出	30	49
有形固定資産の売却による収入	5	15
無形固定資産の取得による支出	17	18
投資有価証券の取得による支出	311	4
投資有価証券の売却による収入	36	-
投資有価証券の償還による収入	334	-
貸付けによる支出	0	2
貸付金の回収による収入	16	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,057	8,647
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	32	-
自己株式の取得による支出	1	0
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	353	353
財務活動によるキャッシュ・フロー	386	354
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,479	1,931
現金及び現金同等物の期首残高	14,874	9,592
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 9,394	1 11,524

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。これによる損益に与える影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法	当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
2 棚卸資産の評価方法	棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
3 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定的方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、6,352百万円であります。</p> <p>2 損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。 損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産のうち、工事損失引当金に対応する額は、未成工事支出金104百万円であります。</p> <p>3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が当第3四半期連結会計期間末日の残高に含まれております。 受取手形 391百万円</p>	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、6,260百万円であります。</p> <p>2 損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。 損失の発生が見込まれる工事契約に係るたな卸資産のうち、工事損失引当金に対応する額は、未成工事支出金106百万円であります。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)																										
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>1,118百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>131百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>54百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>16百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>78百万円</td> </tr> <tr> <td>通信交通費</td> <td>261百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	1,118百万円	退職給付引当金繰入額	131百万円	賞与引当金繰入額	54百万円	役員退職慰労引当金繰入額	16百万円	減価償却費	78百万円	通信交通費	261百万円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>1,104百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>74百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>52百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>17百万円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td>63百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>69百万円</td> </tr> <tr> <td>通信交通費</td> <td>258百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	1,104百万円	退職給付引当金繰入額	74百万円	賞与引当金繰入額	52百万円	役員退職慰労引当金繰入額	17百万円	貸倒引当金繰入額	63百万円	減価償却費	69百万円	通信交通費	258百万円
従業員給料手当	1,118百万円																										
退職給付引当金繰入額	131百万円																										
賞与引当金繰入額	54百万円																										
役員退職慰労引当金繰入額	16百万円																										
減価償却費	78百万円																										
通信交通費	261百万円																										
従業員給料手当	1,104百万円																										
退職給付引当金繰入額	74百万円																										
賞与引当金繰入額	52百万円																										
役員退職慰労引当金繰入額	17百万円																										
貸倒引当金繰入額	63百万円																										
減価償却費	69百万円																										
通信交通費	258百万円																										

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)																								
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>343百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>43百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>54百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>5百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>26百万円</td> </tr> <tr> <td>通信交通費</td> <td>88百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	343百万円	退職給付引当金繰入額	43百万円	賞与引当金繰入額	54百万円	役員退職慰労引当金繰入額	5百万円	減価償却費	26百万円	通信交通費	88百万円	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td>341百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td>24百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>52百万円</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>5百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>23百万円</td> </tr> <tr> <td>通信交通費</td> <td>87百万円</td> </tr> </table>	従業員給料手当	341百万円	退職給付引当金繰入額	24百万円	賞与引当金繰入額	52百万円	役員退職慰労引当金繰入額	5百万円	減価償却費	23百万円	通信交通費	87百万円
従業員給料手当	343百万円																								
退職給付引当金繰入額	43百万円																								
賞与引当金繰入額	54百万円																								
役員退職慰労引当金繰入額	5百万円																								
減価償却費	26百万円																								
通信交通費	88百万円																								
従業員給料手当	341百万円																								
退職給付引当金繰入額	24百万円																								
賞与引当金繰入額	52百万円																								
役員退職慰労引当金繰入額	5百万円																								
減価償却費	23百万円																								
通信交通費	87百万円																								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1 現金及び現金同等物の当第3四半期連結累計期間 末残高と当第3四半期連結貸借対照表に掲記され ている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)	1 現金及び現金同等物の当第3四半期連結累計期間 末残高と当第3四半期連結貸借対照表に掲記され ている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)
現金預金勘定 20,712百万円	現金預金勘定 11,142百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金 13,418百万円	預入期間が3か月を超える 定期預金 2,618百万円
取得日から3か月以内に償還 期限の到来する短期投資(有 価証券) 2,100百万円	取得日から3か月以内に償還 期限の到来する短期投資(有 価証券) 3,000百万円
現金及び現金同等物 9,394百万円	現金及び現金同等物 11,524百万円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日  
至平成22年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	31,704,400

2 自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	972,667

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	353	11.5	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計  
期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

**【事業の種類別セグメント情報】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める建設事業の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

**【所在地別セグメント情報】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

在外連結子会社及び在外支店がないため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

**【海外売上高】**

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高がないため、海外売上高の記載を省略しております。



【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営者が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、土木工事を土木本部が、建築工事を建築本部が、それぞれ主体となって事業活動を展開しております。また、土木工事と建築工事に付随して不動産事業を行っております。

したがって、当社は、事業の種類別のセグメントから構成されており、土木工事全般から構成される「土木事業」、建築工事全般から構成される「建築事業」及び不動産開発事業から構成される「不動産事業」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他(注)	合計
	土木	建築	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,220	40,711		55,931	334	56,266
セグメント間の内部売上高又は振替高					10	10
計	15,220	40,711		55,931	344	56,276
セグメント利益	832	3,742		4,574	21	4,595

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゴルフ場運営事業を含んでおります。

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他(注)	合計
	土木	建築	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,023	15,390		21,413	130	21,543
セグメント間の内部売上高又は振替高					3	3
計	6,023	15,390		21,413	133	21,547
セグメント利益	496	1,283		1,779	20	1,800

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゴルフ場運営事業を含んでおります。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
 主な内容(差異調整に関する事項)

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,574
「その他」の区分の利益	21
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	2,987
四半期連結損益計算書の営業利益	1,605

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

当第3四半期連結会計期間(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,779
「その他」の区分の利益	20
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	986
四半期連結損益計算書の営業利益	813

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)

現金預金、受取手形・完成工事未収入金等が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

(単位：百万円)

科目	四半期連結 貸借 対照表計上額	時価	差額	時価の算定方法
現金預金	11,142	11,142		(注1)
受取手形・完成工事未 収入金等	37,895	37,827	68	(注2)

(注)1．現金預金の時価の算定方法

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2．受取手形・完成工事未収入金等の時価の算定方法

一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引を行っていないので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)		前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,555.95円	1株当たり純資産額	1,520.18円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	47,817	46,721
普通株式に係る純資産額(百万円)	47,817	46,721
差額の主な内訳(百万円)		
普通株式の発行済株式数(千株)	31,704	31,704
普通株式の自己株式数(千株)	972	969
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(千株)	30,731	30,734

2 1株当たり四半期純利益金額等

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	35.08円	1株当たり四半期純利益金額	55.19円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 (百万円)	1,078	1,696
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,078	1,696
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,738	30,733

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	6.73円	1株当たり四半期純利益金額	27.91円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益 (百万円)	206	857
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	206	857
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式の期中平均株式数(千株)	30,736	30,732

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月4日

株式会社大本組  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 石黒 訓 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 三宅 昇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 鈴木 朋之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大本組の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大本組及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月7日

株式会社大本組  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 石黒 訓 印

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 鈴木 朋之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大本組の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大本組及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。